

# 「オンリーワン」の美ら島を目指して

内閣府沖縄担当部局では、厳しい環境にある沖縄の離島がそれぞれの島の魅力を存分に生かして、オンリーワンの輝きを放てるよう地元をバックアップする取り組みを進めています。

この取り組みについては、平成十六年五月に設置した「美ら島会議」（離島活性化調査検討会議）において検討を行ってきました。検討にあたっては、内閣府の若手職員を各島の担当者として置き、県内の四十の有人離島を実際に訪問して島の実情を直接に拝見し、地元の方々とひざを交えながら意見交換を行いました。

それらの結果も踏まえ、新

たに平成十七年度には、沖縄離島（美ら島）活性化特別事業や離島ブロードバンド環境整備事業などに、沖縄県などと協力して取り組むこととしています。

具体的には、「人材の育成やブロードバンド化の促進など島の基礎的な基盤の充実」、「それぞれの島の特色を生かした産業の育成支援」などを行うこととしています。

今後のまちづくりのあり方について熱心に議論いただきました。

今、沖縄の離島を取り巻く状況は、確かに大変厳しい面もあるものの、全国的な沖縄人気の中で、離島指向も高まるなど明るい側面もあります。

昨年、沖縄県全体の入域観光客数は過去最高であった平成十五年を上回り、五百十五万人を数えました。

た。八重山では七十万人を超え、宮古でも四十万人を目前にするという状況になっています。

今年に入ってから、久米島でプロ野球のキャンプが初めて開催され、期間中はテレビや新聞でも連日取り上げ



北大東島意見交換会



水納島（本部町）意見交換会

渡嘉敷島体験学習（シーカヤック）



られておりました。さらに、南大東島で、特産のサトウキビを活用しラム酒造りに取り組むベンチャー企業が新聞や雑誌で昨年から今年にかけ、何度も取り上げられるということもありました。

今、高まりつつある離島への関心が、沖縄の島々、美ら島への強い風となるよう美ら島活性化特別事業などを十分に活用いただき、各島において島の歴史や特色を生かした創意工夫により、小池大臣が述べている「オンリーワン」の美ら島を目指していただければと考えています。